

5課

11月4日

宣教を避けるための言い訳



2023.11.04



Hajime Taniguchi

K	創世記	26:24 その夜、主が現れて言われた。「わたしは、あなたの父アブラハムの神である。恐れてはならない。わたしはあなたと共にいる。わたしはあなたを祝福し、子孫を増やす／わが僕アブラハムのゆえに。」
K	申命記	31:6 強く、また雄々しくあれ。恐れてはならない。彼らのゆえにうろたえてはならない。あなたの神、主は、あなたと共に歩まれる。あなたを見放すことも、見捨てられることもない。」
K	申命記	31:8 主御自身があなたに先立って行き、主御自身があなたと共におられる。主はあなたを見放すことも、見捨てられることもない。恐れてはならない。おののいてはならない。」
K	ヨシュア記	1:9 わたしは、強く雄々しくあれと命じたではないか。うろたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる。」
K	歴代誌上	28:20 こうしてダビデはその子ソロモンに言った。「勇気をもって雄々しく実行せよ。恐れてはならない。おじけてはならない。わたしの神、神なる主はあなたと共にいて、決してあなたを離れず、捨て置かず、主の神殿に奉仕する職務をことごとく果たさせてくださるからである。」
K	歴代誌下	20:17 そのときあなたたちが戦う必要はない。堅く立って、主があなたたちを救うのを見よ。ユダとエルサレムの人々よ、恐れるな。おじけるな。明日敵に向かって出て行け。主が共にいる。』
K	詩編	23:4 死の陰の谷を行くときも／わたしは災いを恐れぬ。あなたがわたしと共にいてくださる。あなたの鞭、あなたの杖／それがわたしを力づける。
K	イザヤ書	41:10 恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。
K	エレミヤ書	1:8 彼らを恐れるな。わたしがあなたと共にいて／必ず救い出す」と主は言われた。
K	エレミヤ書	42:11 今、あなたたちはバビロンの王を恐れているが、彼を恐れてはならない。彼を恐れるな、と主は言われる。わたしがあなたたちと共にいて、必ず救い、彼の手から助け出すからである。

私たちも、神と神が私たちに期待されていることについて、誤解することがあります。よくある誤解は、神が私たちに望んでおられるのは、自分自身の救いに専念し、周囲のこの世の悪から自分を遠ざけることである、というものです。私たちは、「世の汚れに染まらないように自分を守る」ように命じられていますが（ヤコ1:27）、私たちの焦点は、困窮している人々に、どのように神の祝福と希望をもたらすかにあるべきです。

宣教への神の召しを受け入れることを妨げるもう一つの誤解は、成功は自分自身にかかっていると信じることです。ヨナがニネベを救えなかったように、私たちは魂を救うことができません。ただし、私たちは宣教に対して「救い主」のような考え方を持つことはできます。私たちが召されるのは、自分で救いを成し遂げるためではなく、神の救いの働きに協力するためです。私たちは、神によっていかに変えられつつあるかについて、神をほめたたえる証をしますが、人々を神のもとに引き寄せることができるのは、神ご自身だけです。私たちは真理の種をまくことはできますが、心を変えることができるのは神だけです。

創世記22:1、11、31:11、46:2、出エジプト記3:4、サムエル記上3:4～6、8(口語訳、KJB)

		聖書Navi Active 393128091
	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 4 / 聖句等の総数 33250 <ここにあります>2個 <ここにあります>2個] (新共同訳) [検索語彙 : ここにあります・ここにあります]
K	サムエル記上	3:4 主はサムエルを呼ばれた。 <u>サムエルは、「ここにあります」と答えて、</u> Here am I.
K	サムエル記上	3:16 エリはサムエルを呼んで言った。「わが子、サムエルよ。」 <u>サムエルは答えた。「ここにあります。」</u>
K	<u>イザヤ書</u>	6:8 そのとき、わたしは主の御声を聞いた。「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行かろうか。」わたしは言った。「 <u>わたしがここにあります。わたしを遣わしてください。</u> 」
S	使徒言行録	9:10 ところで、ダマスコにアナニアという弟子がいた。幻の中で主が、「アナニア」と呼びかけると、 <u>アナニアは、「主よ、ここにあります」と言った。</u> I am here, Lord.



※出エジプト記4:10 全くわたしは口が重く、舌の重い者なのです。

※出エジプト記4:13 「ああ、主よ、どうか、ほかの適当な人をおつかわしてください。」

創世記22:11

新共同訳

そのとき、天から主の御使いが、「アブラハム、アブラハム」と呼びかけた。
彼が、「はい」と答えると、

ヤコブ 創世記46:2

モーセ 出エジプト記3:4

ダニエル ダニエル書6:21

マルタ ルカ10:41

パウロ 使徒9:4

サムエル 3:4, 6, 8, 10

創世記22:11についての表記の違い

➤新共同訳

そのとき、天から主の御使いが、「アブラハム、アブラハム」と呼びかけた。彼が、「はい」と答えると、



➤口語訳

主の使が天から彼を呼んで言った、「アブラハムよ、アブラハムよ」。彼は答えた、「はい、ここにおります」。

➤聖書協会共同訳・KJB

すると、天から主の使いが呼びかけ、「アブラハム、アブラハム」と言った。彼が、「はい、ここにおります」(新共同訳:「はい」、KJB:and he said, Here am I.)と答えると、

エレン・G・ホワイトは、「周囲の人たちに証し(→宣教)をしなさい」というイエスの呼びかけに従おうとしない人たちに **⚠️ 強い警告**を発しています。

「この働きをしない人たちの言い分(言い訳)は、(正当な理由もなく)彼らの責任を免れるものではない。もし、この(宣教の)働きをしないことを選ぶなら、キリストが代わりに死んでくださった魂を無視し、神から与えられた責任を無視したことになり、不忠実な僕として天の書に記録される。→ neglect: 遺棄する(≠怠る)

牧師が、助けを必要とする人たちから遠ざかっているとき、主がなさったように、他の人たちを力づけ、祝福するために働けるでしょうか。

人々との個人的な交流を無視し、自己中心的になる人たちは、自分たちの霊的状态を理解し、神の群れを養い、人々に必要なものを必要な時に与える(旬の時期に分けて食べる)方法を知るために、兄弟たちとのコミュニケーションの中に身を置く経験が必要なのです。

この働きを無視する人は、道徳的刷新が必要であり、それが理解できれば、自分たちがその働きの重荷を背負っていなかったことに気づくことになるでしょう。」

Ellen G. White, Advent Review and Sabbath Herald, August 30, 1892.

Further Thought: Ellen G. White has a strong warning for those who are struggling to follow the call of Jesus to witness to those around them.

“The excuses of those who fail to do this work do not relieve them of the responsibility, and if they choose not to do this work, they neglect the souls for whom Christ died, neglect their God-given responsibility, and are registered in the books of heaven as unfaithful servants. Does the minister work as did the Master, to be a strength and a blessing to others, when he shuts himself away from those who need his help? Those who neglect personal intercourse with the people, become self-centered, and need this very experience of placing themselves in communication with their brethren, that they may understand their spiritual condition, and know how to feed the flock of God, giving to each his portion of meat in due season. Those who neglect this work make it manifest that they need moral renovation, and then they will see they have not carried the burden of the work.”—Ellen G. White, *Advent Review and Sabbath Herald*, August 30, 1892.

このように、神の宣教は、たとえ不本意であっても、犠牲をいとわない人の肩に担われて前進しています。私たちの価値観は、失われた人々に対する神の優先順位に道を譲らなければなりません。ヨナのように、私たちも偏見を抱いて、ある人や集団に手を差し伸べることをためらってしまうことがあります。

偏見と向き合うには、謙虚さが必要です。また、宣教には時間と精神的エネルギーが必要です。他人の人生に投資し、その人を心から世話することは、負担になることがあります。 私たちが自分自身の生活や問題に追われるストレスの多い時代に、精神的な支援をすることは、あまりにも大変なように思えるかもしれません。

そして最後に、宣教に参加すると、しばしば、お金に対する私たちの考え方や使い方を変えることが求められます。 人々の世話をするため、書籍や支援活動の材料を購入するため、あるいは宣教活動のための時間を確保するためにサービスや便利なものにお金を払うためなど、宣教に関連した費用が発生します。どのような形であろうと、宣教活動には犠牲が必要です。

4 : 11 And should not I **spare** (= **o:n** フース:[比喩的に]同情する、哀れむ、敬意を払う、惜しむ) Nineveh, **that great city**, wherein are more than **sixscore thousand persons** that cannot discern between **their right hand and their left hand**; and also much cattle?

概訳

私はニネベを惜しまない(惜しまずにいる)だろうか？あの偉大な都市、ニネベには物事の道理すらわからない多くの人や牛(家畜)もたくさんいるのだから。

※十二万人×2.5=30万人 ~40万人